

平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月13日

上場会社名 オメガプロジェクト・ホールディングス株式会社
 コード番号 6819 URL <http://www.omega.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

上場取引所 JQ

(氏名) 近藤 宜彰
 (氏名) 諸橋 裕

TEL 03-5447-7750

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|-------|------|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 21年3月期第2四半期 | 1,640 | — | △267 | — | △229 | — | △1,143 | — |
| 20年3月期第2四半期 | 2,534 | 18.5 | 212 | — | 221 | — | △94 | — |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 21年3月期第2四半期 | △7.91 | — |
| 20年3月期第2四半期 | △1.22 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | | 1株当たり純資産 | |
|-------------|-------|-------|-------|-------|--------|------|----------|--|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 | 円 銭 | |
| 21年3月期第2四半期 | 4,045 | 1,249 | 1,249 | 1,047 | 22.2 | 4.67 | 4.67 | |
| 20年3月期 | 5,162 | 1,047 | 1,047 | 669 | 13.0 | 5.99 | 5.99 | |

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 897百万円 20年3月期 669百万円

2. 配当の状況

| (基準日) | 1株当たり配当金 | | | | |
|------------|----------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 年間 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 20年3月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 21年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 21年3月期(予想) | — | — | — | 0.00 | 0.00 |

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-------|-------|------|---|------|---|--------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 3,340 | △10.9 | △257 | — | △224 | — | △1,139 | — | △5.92 |

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|----------------------|-------------|--------------|-------------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 21年3月期第2四半期 | 192,410,272株 | 20年3月期 | 111,855,272株 |
| ② 期末自己株式数 | 21年3月期第2四半期 | 159,983株 | 20年3月期 | 159,983株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 21年3月期第2四半期 | 144,562,830株 | 20年3月期第2四半期 | 76,945,289株 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

上記に記載した予想数値は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づき作成しており、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題を背景とする米国経済の減速懸念や金融市場の混乱、原油価格の高騰等の影響を受け、景気下振れリスクが高まる展開となりました。

映像・音盤事業を取巻く業界においては、人気テレビドラマの映画化等、ニーズを捉えた作品が幅広い年齢層から支持を受けております。また、通信インフラの整備や多様な端末の普及に伴う、コンテンツの表現方法の多様化により、引続きマーケットが拡大傾向にあります。レジャー事業を取巻く業界においては、原油価格の高騰が継続している状況で、海外旅行や自家用車を利用した外出が控えられている状況にあります。投資事業を取巻く業界においては、サブプライム問題に端を発する金融市場の混乱等により、事業環境は依然として不安定な状況にあります。

こうした状況のもと、当社はより一層の経営の効率化を図るとともに、積極的な営業活動を推し進めてまいりましたが、当社グループの経営環境は依然として不安定かつ厳しい状況であります。

平成20年11月7日付「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表のとおり、当社個別におきまして、貸付金等の回収可能性を厳密に精査した結果、貸付先等の業績悪化等を勘案し、貸倒引当金繰入損を特別損失として計上し、また、従前より保有している営業投資有価証券及び投資有価証券の一部におきまして、株価下落を要因とした今後の金融市場の動向と回復可能性を慎重に判断した結果、営業投資有価証券評価損及び投資有価証券評価損を特別損失として計上いたしました。

連結におきまして、上記個別の特別損失に加えて当社子会社取引先の業績悪化に伴い、当該取引先に対する貸倒引当金繰入損を特別損失として計上いたしました。

また、売上高は増加したものの、株式事務諸経費や広告宣伝費等の販売費及び一般管理費の増加により、営業利益及び経常利益は減少いたしました。四半期純損失におきましては、上記特別損失の発生とともに、平成20年3月期以前より引当金を計上した貸付金・債権の回収が、急激な経済情勢の悪化等で計画通り進まなかったことで、当初見込んでいた特別利益の計上が困難になり、当初予想より減少いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高1,640百万円、営業損失267百万円、経常損失229百万円、四半期純損失1,143百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間の概況を部門別に示すと、次のとおりであります。

(レジャー事業)

当第2四半期連結累計期間におけるレジャー事業につきましては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する伊豆3公園（伊豆シャボテン公園、伊豆ぐらんぱる公園、伊豆海洋公園）は、スポンサーによる広告宣伝や積極的な営業活動を行うとともに、7月及び8月が好天に恵まれ、また昨年オープンした「伊豆高原旅の駅 ぐらんぱるぽーと」も好評であり、来場者数及び売上高は増加いたしました。その他に伊豆スカイラインカンントリー株式会社が運営する「伊豆スカイラインカンントリー倶楽部」も順調に稼動しております。

この結果、レジャー事業においては、売上高1,378百万円となりました。

(映像・音盤関連事業)

当第2四半期連結累計期間における映像・音盤関連事業につきましては、株式会社FLACOCOが「学校法人 東海大学」並びに三和酒類株式会社の「iichiko」のTV-CM制作、「ナイキゴルフ」及び大手化粧品メーカーの広告制作等を手掛けております。また、ドラマ作品においては、高畑淳子や村田雄浩などが出演した「街占師」、森村誠一原作で三浦友和や野際陽子などが出演した「時」、現WBC世界フライ級チャンピオン内藤大助選手の自叙伝を原作とした「内藤大助物語 いじめられっ子のチャンピオンベルト」を当社グループが撮影・業務協力を行いました。

この結果、映像・音盤関連事業においては、売上高221百万円となりました。

(投資事業)

当第2四半期連結累計期間における投資事業につきましては、先般から不安定となっております事業基盤の整理・再構築等を推し進めてまいりました。

この結果、投資事業においては、売上高57万円となりました。

(その他の事業)

当第2四半期連結累計期間におけるその他の事業につきましては、当社保有の不動産物件による賃貸収入等がありました。

この結果、その他の事業においては、売上高40百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて730百万円減少し、1,614百万円となりました。これは主として、現金及び預金が543百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて387百万円減少し、2,430百万円となりました。これは主として、投資有価証券が566百万円減少したこと等によります。

この結果として、総資産は前連結会計年度末に比べて1,117百万円減少し、4,045百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1,312百万円減少し、2,079百万円となりました。これは主として、預り金が651百万円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1,319百万円減少し、2,795百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、1,249百万円となりました。

1株当たり純資産は、前連結会計年度末より1円32銭減少し、4円67銭となりました。また、自己資本比率は前連結会計年度末の13.0%から22.2%となりました。

(キャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ543百万円減少し、159百万円となりました。

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は561百万円となりました。これは主として、税金等調整前四半期純損失によるものであります。

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は833百万円となりました。これは主として、貸付金の支出によるものであります。

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、獲得した資金は851百万円となりました。これは主として、第6回新株予約権等の株式の発行によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、平成20年8月12日付「特別損失の発生に関するお知らせ」にて個別で発表したとおり、個別130百万円、連結144百万円を特別損失として計上し、また平成20年11月7日付「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表したとおり、特別損失として個別693百万円、連結812百万円を特別損失として計上いたしました。これらの結果、平成21年3月期において、特別損失は合計で個別823百万円、連結957百万円となる見込みです。

また、レジャー事業において7月～8月にかけて好天に恵まれ、また昨年オープンした新施設も好評であり、テーマパーク施設の入園者数は当初予想より増加したことや、継続的な営業努力による映像制作の受注増加等の結果、売上高は増加いたしました。しかしながら、利益面におきましては、売上高は増加したものの、第6回新株予約権行使による新株式の名義書換等に係る株式事務諸経費やスポンサー費用を含む広告宣伝費等の増加により、当初予想より営業利益は277百万円、経常利益は234百万円減少する見込みです。

当期純利益に関しましては、上記特別損失の発生とともに平成20年3月期以前より引当金を計上した貸付金・債権の回収が、急激な経済情勢の悪化等の影響で計画どおり進まなかったことで、当初見込んでいた特別利益の計上が困難になり、当初予想より1,146百万円減少する見込みです。

以上の結果、平成21年3月期(通期)における連結業績予想につきましては、売上高3,340百万円、営業損失257百万円、経常損失224百万円、当期純損失1,139百万円を見込んでおります。

尚、平成21年3月期通期業績予想につきましては、平成20年11月7日付「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表した数値より変更はございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

2 リース取引に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を早期適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。これによる損益への影響はありません。

3 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として移動平均法による原価法により算定しておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

なお、当該変更に伴う損益に与える影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日) |
|-------------|-------------------------------|--|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 159,230 | 702,996 |
| 売掛金 | 56,456 | 240,361 |
| 未収入金 | 642,927 | 252,485 |
| 商品有価証券 | — | 1,691 |
| 営業投資有価証券 | 151,093 | 134,375 |
| 商品等 | 59,643 | 40,563 |
| 映像配給権 | 45,079 | 28,282 |
| 前渡金 | 55,204 | 178,787 |
| 短期貸付金 | 896,164 | 706,151 |
| その他 | 184,447 | 336,226 |
| 貸倒引当金 | △635,560 | △277,018 |
| 流動資産合計 | 1,614,685 | 2,344,901 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 627,395 | 609,169 |
| コース勘定 | 359,972 | 359,972 |
| 土地 | 621,966 | 621,966 |
| その他(純額) | 137,940 | 127,897 |
| 有形固定資産合計 | 1,747,273 | 1,719,005 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 130,121 | 155,973 |
| その他 | 598 | 748 |
| 無形固定資産合計 | 130,719 | 156,722 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 320,722 | 886,833 |
| 長期貸付金 | 844,234 | 1,555,163 |
| 長期化営業債権 | 1,805,911 | 2,272,545 |
| その他 | 148,914 | 66,445 |
| 貸倒引当金 | △2,567,209 | △3,838,957 |
| 投資その他の資産合計 | 552,573 | 942,030 |
| 固定資産合計 | 2,430,566 | 2,817,757 |
| 資産合計 | 4,045,252 | 5,162,659 |

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日) |
|--------------|-------------------------------|--|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 1,053,638 | 1,280,371 |
| 短期借入金 | 20,000 | 473,512 |
| 未払金 | 754,579 | 751,347 |
| 預り金 | 28,275 | 680,204 |
| 未払法人税等 | 9,329 | 8,099 |
| 賞与引当金 | 46,809 | 49,831 |
| その他 | 166,720 | 148,610 |
| 流動負債合計 | 2,079,351 | 3,391,977 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 23,800 | 35,250 |
| 退職給付引当金 | 213,636 | 210,065 |
| 役員退職慰労引当金 | 34,492 | 30,688 |
| 会員預り金 | 390,730 | 393,030 |
| その他 | 53,900 | 53,900 |
| 固定負債合計 | 716,558 | 722,933 |
| 負債合計 | 2,795,910 | 4,114,911 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,169,127 | 4,691,217 |
| 資本剰余金 | 1,054,821 | 3,402,547 |
| 利益剰余金 | △1,314,925 | △7,223,621 |
| 自己株式 | △13,467 | △13,467 |
| 株主資本合計 | 895,555 | 856,676 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △17,154 | △206,719 |
| 為替換算調整勘定 | 19,290 | 19,590 |
| 評価・換算差額等合計 | 2,135 | △187,128 |
| 新株予約権 | 65,394 | 58,095 |
| 少数株主持分 | 286,256 | 320,106 |
| 純資産合計 | 1,249,341 | 1,047,748 |
| 負債純資産合計 | 4,045,252 | 5,162,659 |

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日) |
|-----------------|---|
| 売上高 | 1,640,871 |
| 売上原価 | 734,723 |
| 売上総利益 | 906,147 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,174,099 |
| 営業損失(△) | △267,951 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 30,703 |
| その他 | 21,204 |
| 営業外収益合計 | 51,907 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 2,578 |
| 持分法による投資損失 | 3,661 |
| その他 | 7,142 |
| 営業外費用合計 | 13,382 |
| 経常損失(△) | △229,426 |
| 特別利益 | |
| 投資有価証券売却益 | 7,791 |
| その他 | 2,954 |
| 特別利益合計 | 10,745 |
| 特別損失 | |
| 営業投資有価証券評価損 | 37,919 |
| 投資有価証券評価損 | 158,012 |
| 貸倒引当金繰入損 | 761,073 |
| その他 | 57 |
| 特別損失合計 | 957,062 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △1,175,742 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,269 |
| 少数株主損失(△) | △33,849 |
| 四半期純損失(△) | △1,143,162 |

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年9月30日)

| | |
|---------------------|------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △1,175,742 |
| 減価償却費 | 52,518 |
| のれん償却額 | 25,852 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 136,693 |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | 3,571 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(△は減少) | 3,803 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | △3,022 |
| 株式報酬費用 | 6,840 |
| 受取利息及び受取配当金 | △30,707 |
| 支払利息 | 2,578 |
| 株式交付費 | 1,825 |
| 為替差損益(△は益) | △135 |
| 投資有価証券売却損益(△は益) | △7,791 |
| 投資有価証券評価損益(△は益) | 158,012 |
| 持分法による投資損益(△は益) | 3,661 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 251,513 |
| 商品有価証券の増減額(△は増加) | 1,691 |
| 営業投資有価証券の増減額(△は増加) | 40,397 |
| 商品等の増減額(△は増加) | △19,081 |
| 映像配給権の増減額(△は増加) | △16,797 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △223,681 |
| 前渡金の増減額(△は増加) | 64,582 |
| その他の流動資産の増減額(△は増加) | 147,714 |
| 未収消費税等の増減額(△は増加) | △6,597 |
| その他の流動負債の増減額(△は減少) | △516,734 |
| 長期化営業債権の増減額(△は増加) | 627,623 |
| その他の固定資産の増減額(△は増加) | △82,624 |
| その他の固定負債の増減額(△は減少) | △2,300 |
| 未払法人税等の増加額(△減少額) | 3,859 |
| その他 | △896 |
| 小計 | △553,373 |
| 利息及び配当金の受取額 | 5,378 |
| 利息の支払額 | △3,000 |
| 法人税等の支払額 | △10,679 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △561,674 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △80,766 |
| 貸付けによる支出 | △827,954 |
| 貸付金の回収による収入 | 75,631 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △833,088 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | △310,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △20,044 |
| 株式の発行による収入 | 1,181,629 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 851,585 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △587 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △543,765 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 702,996 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 159,230 |

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

当社グループは、平成19年3月期におきまして営業損失1,796,524千円、当期純損失6,169,368千円を計上し、平成20年3月期におきましても営業損失1,092,523千円、当期純損失6,240,426千円を計上し、平成21年3月期第2四半期連結会計期間におきましても営業損失109,874千円、四半期純損失876,836千円を計上しており、営業キャッシュ・フローもマイナスとなっております。このため、継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる状況に該当しております。

当第2四半期連結会計期間における当社グループは、レジャー事業においては、積極的な営業活動を行うとともに7月及び8月が好天に恵まれ、昨年オープンした新施設も好評であり、各施設の入場者数並びに売上高は増加し、映像・音盤関連事業においては、継続的な営業努力により各クライアントのCM制作の受注やドラマ作品への業務協力が順調に推移し、売上総利益を計上しております。しかしながら、経費面については、人件費や地代家賃をはじめとする販売費及び一般管理費の削減を図ってまいりましたが、当第2四半期連結会計期間においても営業損失が発生している状況であります。

平成21年3月期につきましては、レジャー事業においては、全天候型の施設運営やスポンサーによる宣伝効果で全国的な事業イメージを浸透させ、映像・音盤関連事業においては、CM・ドラマ・映画等のコンテンツポートフォリオの構築によるリスク分散化を図るとともに継続的な製作を行うことで収益の安定化・事業の拡大を図ってまいります。投資事業においては、純投資から企業育成へ投資方針をシフトすることにより、グループ全体での企業価値の底上げを図る所存です。これらにより営業キャッシュ・フローの増大、営業収益の向上を図ってまいります。

また、グループ全体でのスケールメリットを活かしたコストコントロールや消耗品・支払手数料等の見直しといった販売費及び一般管理費の削減を予定しております。あわせて当社グループの事業モデル等に賛同頂いた投資家から未行使分の第5回及び第6回新株予約権等による支援を受けることで、財務体質の強化、繰越損失の解消が図れるとともに、キャッシュ・フロー面においても改善が見込まれ、積極的な事業拡大も図れるものと考えております。これらの施策と業務提携等を通じ、黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものと考えております。

このため、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

| | レジャー 事業 (千円) | 映像・音盤 関連事業 (千円) | 投資事業 (千円) | その他の 事業 (千円) | 計(千円) | 消去又は 全社(千円) | 連結(千円) |
|---------------------------|--------------------|-----------------------|--------------|--------------------|-----------|----------------|-----------|
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客に 対する売上高 | 1,378,180 | 221,610 | 571 | 40,509 | 1,640,871 | — | 1,640,871 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 502 | 2,844 | 114,600 | 17,142 | 135,089 | △135,089 | — |
| 計 | 1,378,682 | 224,455 | 115,171 | 57,652 | 1,775,961 | △135,089 | 1,640,871 |
| 営業利益(△損失) | 43,650 | △165,793 | △115,504 | △35,316 | △272,963 | 5,011 | △267,951 |

(注) 1 事業区分は事業内容を勘案して、下記の通り区分しております。

レジャー事業

テーマパーク及びスポーツレジャー施設の運営の管理・指導。

映像・音盤関連事業

映画の劇場放映権、CD・DVD化権など映像ソフトの権利売買、ビデオ販売、ビデオレンタル及び映像制作請負等。

投資事業

事業シナジーが見込まれる企業への投資・育成やコンテンツファンドへの投資等。

その他の事業

不動産事業等。

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

本邦の売上高の金額は、全セグメントの売上高の合計に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

海外売上高は連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

前連結会計年度末に比して、以下のとおり株主資本の金額に著しい変動が認められます。

(千円)

| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
|------------------------|------------|------------|------------|---------|------------|
| 前連結会計年度末残高 | 4,691,217 | 3,402,547 | △7,223,621 | △13,467 | 856,676 |
| 当第2四半期連結会計期間末までの変動額 | | | | | |
| 資本金の取崩 | △4,191,217 | 4,191,217 | — | — | — |
| その他資本剰余金からその他利益剰余金への振替 | — | △7,051,858 | 7,051,858 | — | — |
| 新株の発行 | 669,127 | 512,915 | | | 1,182,042 |
| 四半期純損失 | — | — | △1,143,162 | — | △1,143,162 |
| 当第2四半期連結会計期間末までの変動額合計 | △3,522,090 | △2,347,725 | 5,908,695 | — | 38,879 |
| 当第2四半期連結会計期間末残高 | 1,169,127 | 1,054,821 | △1,314,925 | △13,467 | 895,555 |

「参考」

前年同四半期に係る財務諸表等

(要約)前中間連結損益計算書

| 科目 | 前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日) |
|----------------|--|
| | 金額(百万円) |
| I 売上高 | 2,534 |
| II 売上原価 | 1,377 |
| 売上総利益 | 1,157 |
| III 販売費及び一般管理費 | 945 |
| 営業利益 | 212 |
| IV 営業外収益 | 54 |
| V 営業外費用 | 46 |
| 経常利益 | 221 |
| VI 特別利益 | 3 |
| VII 特別損失 | 317 |
| 税金等調整前中間純損失(△) | △93 |
| 税金費用 | 3 |
| 少数株主損失(△) | △2 |
| 中間純損失(△) | △94 |